

令和2年産水稻の8月15日現在における作柄概況 (高知県)

【調査結果の概要】

1 早期栽培

(1) 田植、出穂及び刈取の状況

田植最盛期は、平年に比べ1日早い4月11日となりました。

出穂最盛期は、平年並みの7月2日となりました。

8月15日現在の刈取済面積割合は85%となっています。

(2) 作柄概況

穂数は、田植期以降気温が低く、初期生育に遅れがみられたことから、「やや少ない」となりました。

1穂当たりもみ数は、幼穂形成期にあたる6月の天候が良好であったことから「やや多い」となりました。この結果、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は「やや多い」となりました。

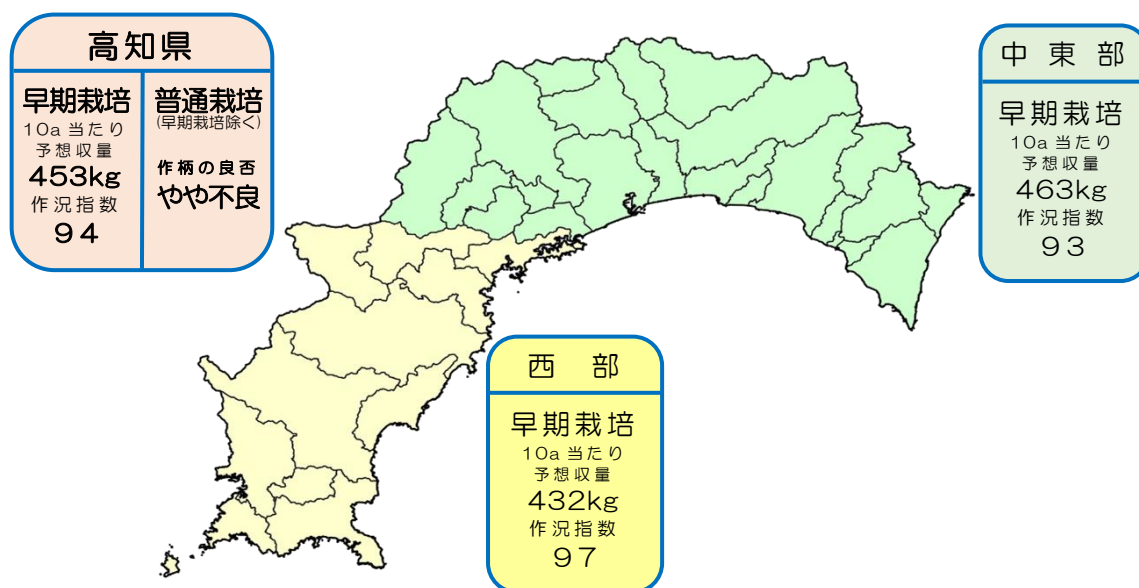
登熟は、もみ数がやや多くなったことに対する相反作用に加え、7月の日照不足等の影響により、「不良」と見込まれます。

以上のことから、高知県における早期栽培の10a当たり予想収量は453kg（前年産に比べ2kg減少）と見込まれます。

また、農家等が使用しているふるい目幅（高知県は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は94（不良）と見込まれます。

作柄表示地帯別にみると、10a当たり予想収量は中東部が463kg、西部が432kg、作況指数は中東部が93（不良）、西部が97（やや不良）と見込まれます。

図 水稻の作柄表示地帯別作柄概況（8月15日現在）



普通栽培（早期栽培を除く県全域）の作柄の良否は、気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）を説明変数、10a 当たり収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、作柄を予測したものです。

2 普通栽培（早期栽培を除く県全域）

(1) 田植及び出穂の状況

田植最盛期は、平年に比べ1日早い5月25日となりました。

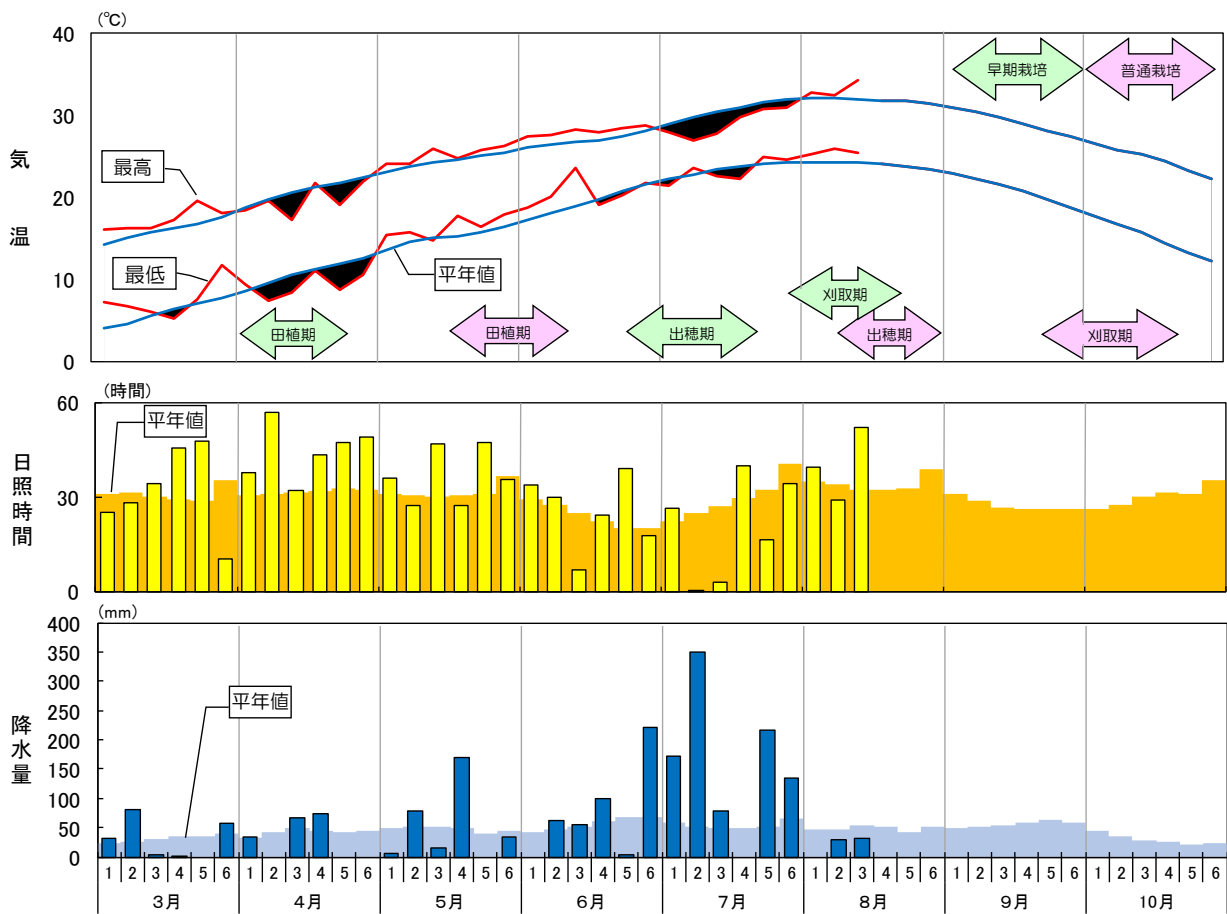
8月15日現在の出穂済面積割合は28%となっています。

(2) 作柄概況

気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表面温度、日射量、植生指数等）から予測した高知県の水稻の作柄は「やや不良」と見込まれます。

◎半旬別気象図

高知市の気象図



気象庁「アメダス」を基に作成

本資料は、「令和2年産水稻の8月15日現在における作柄概況（中国地域・四国地域）」の補足資料です。調査の概要は、「令和2年産水稻の8月15日現在における作柄概況（中国地域・四国地域）」をご覧ください。

お問い合わせ先

中国四国農政局 高知県拠点 統計チーム 担当：田中、上枝
電話：088-824-7900 FAX：088-820-0202